

1. 主旨

本学術誌は、看護現象に関する学術的取組みや情報を発信することを通じて、看護学の発展に寄与することを目的とする。特に、文献レビュー、概念分析、理論構築など看護の基盤となる知の構築および研究と臨床実践とのリンケージを推し進め、看護の質の向上に貢献する。

2. 発行

本誌はオンラインジャーナルである。採択された論文はインターネット上に逐次掲載される。

3. 投稿原稿の範囲

1) 原稿の種別は、下記のとおりとするが、必要に応じて適切な名称を投稿者が希望することができる。

【論説】看護学に関わる問題や話題について、多面的に内外の知見を集め、また文献等をレビューして、今後の方向性を指し示すような著述や提言。

【研究論文】独創性に富み、主張が明確に表明されていて、看護学の知識の発展に貢献するものと認められたもの。研究目的、方法、結果、考察など、論文としての書式が整っているもの。概念分析、理論構築、システマティック・レビュー等、新たな看護学の知を生む論文を含む。

【実践報告】新しい工夫や試みを含みその看護実践を公表することにより、看護実践の質向上・発展および普及が見込めるもの。以下のような書式をとることが望ましい。

1) はじめに/実践の背景

2) 方法: 実践モデルの提示, 実施手順, 評価方法(プロセス評価, アウトカム評価), 分析方法, 倫理的配慮

3) 結果: 参加者の特徴, プロセス評価結果, アウトカム評価結果

4) 考察

【その他】看護学の発展において、臨床や教育現場に何らかの示唆をもたらすもの。

2) 投稿論文の内容は、他の出版物(国の内外を問わず)にすでに発表あるいは投稿されていないものに限る。重複投稿は禁止する。

4. 倫理的配慮

1) 人および動物が対象である研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。

2) 人および動物が対象である研究については、主となる研究者が所属する施設の倫理委員会の承認を得ていること。承認番号は文中に記載する。

5. 謝辞

当該研究の遂行に関して受けた研究助成がある場合、また、著者以外で当該研究の遂行や論文作成に貢献した者(以下、貢献者)がいる場合は、「謝辞」の欄に各貢献者の貢献内容を記して謝意を述べる。

6. 利益相反*

著者全員について、投稿時から遡って過去1年以内での発表内容に関係する企業・組織または団体とのCOI状態を以下のように記載する。当該研究の遂行や論文作成において、A) 利

益相反となるような経済的支援を受けた場合には、その旨を記載する。B)利益相反状態が存在しない場合には、「本研究における利益相反は存在しない」と記載する。

*利益相反:外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態「厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest:COI)の管理に関する指針」(平成 20 年 3 月 31 日科発 0331001 号)。

7. 原稿の受付および採否

- 1)原稿の採否は、別途定める査読規定に基づいた査読を経て編集委員会が決定する。
- 2)編集委員会の判定により、原稿の修正および原稿の種類の変更を著者に求めることがある。返送され、再提出を求められた原稿は返送日から2カ月以内に再投稿すること。
2カ月以上経過して再投稿された場合は、新規受付として扱われる。
- 3)投稿原稿には氏名、所属、受審した倫理審査委員会名称、謝辞・利益相反、著者資格、ほか投稿者を特定できるような事項を取り外す。論文受理後は、著者名(日本語・英語)、所属機関(日本語・英語)、連絡者情報、倫理委員会名称(承認番号)、謝辞、利益相反等を明記し、掲載雑誌書式に則った最終原稿を作成する。原稿ファイルならびに自筆署名した著作権譲渡同意書のPDFファイルを電子投稿システムにアップロードする。

8. 著作権

著作権は本誌に帰属し、本誌の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。最終原稿提出時、編集委員会より提示される著作権譲渡承諾書に代表著者が自筆署名し、本誌へ送付する。

9. 著者校正

査読を経て、編集委員会で受理された投稿原稿については著者校正を1回行う。但し、校正の際の加筆は原則として認めない。

10. 著者が負担すべき費用

- 1)掲載料:原則として無料とする。
- 2)その他:図表等、印刷上、特別な費用を必要とした場合は著者負担とする。
*別刷は作成しない。

11.原稿執筆の要領

- 1)原稿ファイルは本文(文献を含む)、図(写真を含む)、表に分ける。必ず投稿前にファイル内の文字化け、画像の鮮明度などを確認する。
- 2)投稿原稿の1編は本文、文献、図表を含めて和文は24枚以内、英文は10枚以内を目安とするが必要に応じてこの限りではない。図表(写真を含む)については、印刷面積により原稿枚数に換算する。
- 3)原稿の作成にあたっては以下の点に注意する。

【本文原稿】

- (1)原則として、標準的なフォント(MS明朝、MSゴシックなど)を用いたMS-Wordで作成する。
- (2)和文原稿はA4判横書きで、1行の文字数を30字、1ページの行数を28行(約1,000字)とし、英文原稿は90スクロール、45行とする。
- (3)原稿の構成は、表紙、本文、図表および図の表題とする。表紙は、標題、著者名、所属機

関(以上英文付記), Key words(日本語・英語でそれぞれ 5 語以内), ランニングタイトル(和文 20 文字以内, 英文 40 文字以内), 連絡先住所を記載する。和文抄録(800 字程度), 英文抄録(300words 程度)をつける。英文抄録はプルーフリーディング(英語を母国語とする専門家の校正)を受ける。また, 原稿右欄外には図, 表, 写真の挿入希望位置を示す。

(4) 外国語はカタカナで, 外国人, 日本語訳が定着していない学術用語などは原則として活字体の原綴で書く。

(5) 書式

- ・句読点はカンマ(,)を用いる
- ・見出し数字の後のピリオドは全角とする

【図表】

(1) 図, 表および写真は, 図 1, 表 1, 写真 1 など通し番号をつけ, 1 ページに 1 点として作成する。

①タイトル: タイトルは末尾にはピリオド(.), 句点(.)を付けず, 図のタイトルは図の下に中央に, 表のタイトルは表の上に左そろえとする。なお, 図と表は重複しないように注意する。

②注釈: 図表の注釈は, 図表の下に簡潔に記す。説明文の終わりには句点(.)を付ける。全体に関する補足説明は, 図表の後に説明文を添える。特定部分に関する注には, 表中の該当箇所に注の符号(a, b, c の上つき文字)を付け, 複数ある場合は, 原則改行せずに続ける。

③符号の表記: 統計学上の“*”, “**”や“†”などの符号は, 5%, 1%, 10%の統計上の有意水準を示すときに用い, 数値の右肩に示し, 図表の下部にその旨を示す。

(2) 図については, DOC(X), XLS(X), PPT(X), JPG, TIFF, GIF, AI, EPS および PSD フォーマットなどのオリジナルファイルをアップロードする。

①作図: 作図は, 縮尺を考慮して線の太さを決め, コントラストに留意する。なお, 原則, 色を使わずモノクロで仕上げる。座標軸や曲線, 折れ線の太さは, 論文を通じて一定にする。同一論文に比較対照すべき複数の図があるときは, 全部に同じ目盛りを用いる。

②図中の文字: 座標軸の説明とその単位は各軸の外側中央に示す。縦軸は, 日本語の場合は縦書きとし, 英語の場合は下から上に向かって横書きで書く。

(3) 表については, 標準的なフォント(MS 明朝, MS ゴシック, Times New Roman, Century など)を用いた MS-Excel での作成を推奨する。原則, 表の左の項目(スタブ列)は左そろえとし, 数値は位をそろえ, 小数点の位置, 小数点以下の桁数をそろえる。数値の単位は, 数字が縦に並ぶときはその数値に関する見出しの下, 横に並ぶときは項目の右に書き入れる。表中の数字が理論的に必ず 1 以下の場合(たとえば, 相関係数)は, 0 を付けずに .52 のように小数点以下のみを書く。表中の線はできるだけ少なくし, 適当にスペースをとる。

【文献】

- (1) 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- (2) 文献は著者名のアルファベット順に列記する。但し、共著者は7名まで表記する。著者が8名を超える場合は、第1から第6著者まで書き、途中の著者は“...”で省略表記し、最後の著者を書く。
- (3) 文献の表題は副題も含めて略さずに書く。日本語文献では、副題を2倍ダッシュ（—）ではさむ。外国語文献では、原則として表題と副題の最初の語の頭文字、固有名詞のみ大文字とし、副題はコロン（:）のあとに続ける。
- (4) 雑誌名等は、原則として正式名称を、省略せず記載する。
- (5) 著者名の表記の仕方

①日本語文献

- ・著者名は、姓、名の順に続けて記載する。例：山村寛（2014）。
- ・共著（著者が7名以下）の場合には、全著者を全角カンマ（,）でつなぎ書く。
例：北英樹, 小西由紀子（2014）。
- ・共著（著者が8名以上）の場合には、第1から第6著者まで書き、途中の著者は「...」で省略表記し、最後の著者を書く。
例：坂貴之, 北淳, 服部雅史, 東佳世, 森愛, 西相子...鈴木直人（2014）。
- ・政府・官公庁・研究機関など団体名義の著作物は、正式名称を略さずに書き、個人著者名の場合と同様に、アルファベット順に並べる。

例：厚生労働省

①海外文献

- ・著者名は、姓を先に書き、カンマ（,）をおき、ファースト・ネーム、ミドル・ネームのイニシャルの順で書く。イニシャルのあとにはピリオド（.）を付ける。もし同姓で、イニシャルも同じ著者があるときは、名も略さずに書く。
例：Minami, T. (2015)。
- ・共著（著者が7名以下）：すべての著者を書き、最後の著者の前にカンマ（,）と&をおく。andと綴らぬこと。
例：Saiki, J., Nakazawa, J., & Sugimura, K. (2013)。
- ・共著（著者が8名以上）：著者が8名以上の場合は、第1から第6著者まで書き、途中の著者は“...”で省略表記し、最後の著者を書く。

例：Kita, N., Kudo, E., Nii, S., Oka, K., Sawa, K., Nishi, K., ...Aki, K. (2014)。

- (6) 文献の記載方法は下記に従う。

[雑誌掲載論文]

- ・著者名（発行年）.論文の表題, 掲載雑誌名.号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.

例：中村伸枝, 松浦信夫, 佐々木望（2006）. 1型糖尿病をもつ子どもと健康児のQOLの比較. 糖尿病, 49(1), 11-17.

Matsunaga, R., Yokosawa, K., & Abe, J. (2014). Functional modulations in brain activity for the first and second music: A comparison of high- and low-proficiency bimusicals. *Neuropsychologia*, 54, 1-10.

[書籍]

- ・著者名 (発行年). 書名(版数). 出版社名, 発行地.
- ・著者名(発行年). 論文の表題. 編者名(編), 書名(版数), (ページ数), 発行地, 出版社名.

例 ①一般的

宮埜 寿夫 (1993). 心理学のためのデータ解析法, 東京, 培風館.

American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders (5th ed.)*. Washington, DC: American Psychiatric Association.

例 ②編集書中の特定章

坂本 真士 (2013). 論文投稿に向けて 坂本 真士, 大平 英樹 (編) 心理学論文道場—基礎から始める英語論文執筆— (pp.16-50), 東京, 世界思想社.

Sato, T. (1998). Dmax: Relations to low- and high-level motion processes. In T. Watanabe (Ed.), *High-level motion processing* (pp. 115-152), Cambridge, MA: MIT Press.

[翻訳書]

- ・原著者名 (原書籍刊行年). 原書籍名. 原書籍出版地, 原書籍出版社. (原著者名カタカナ表記, 翻訳者名 (訳), 翻訳書刊行年, 翻訳書籍名, 翻訳書出版社)

例 : Roesn, N. J. (2005). *If only: How to turn regret into opportunity*. New York, Broadway. (ローズ, N. J. 村田 光二 (監訳) (2008). 後悔を好機に変える—イフ・オンリーの心理学— ナカニシヤ出版)

[オンライン版で, DOI のない場合]

- ・著者名(年号):論文タイトル, 収載誌名, 巻(号), 開始ページ-終了ページ. URL

例: 太尾元美, 坂下玲子 (2013). 高齢者の職携帯を普通食へと回復させるためのケアの方略の抽出. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要*, 20, 41-53.

<http://lib.laic.u-hyogo.ac.jp/laic/5/kiyo20/20-04.pdf>

[オンライン版で, DOI のある場合]

- ・著者名(年号):論文タイトル, 収載誌名, 巻(号), 開始ページ-終了ページ. doi:DOI 番号

例 : Roelofs, A. (2014). Modeling of phonological encoding in spoken word production: From Germanic languages to Mandarin Chinese and Japanese. *Japanese Psychological Research*. Advance online publication. doi: 10.1111/jpr.12050

[Web ページなど, 逐次的な更新が前提となっているコンテンツを引用する場合]

- ・出版データのあとにカッコで括って検索日を記載する。

例: American Psychological Association. (2014). Quick Links: APA Style. American

Psychological Association. Retrieved from <http://www.apa.org/learn/index.aspx> (December 3, 2014.)

[学位論文など]

・著者名 (授与年). 表題 (Unpublished master's thesis, doctoral dissertation), 大学名, 所在地.

例 : Li, Q.(2011). Feature-based versus space-based access to internal representations in visual working memory (Unpublished master's thesis). Kyoto University, Kyoto.

[学会発表など]*できるだけ学会発表の引用は避ける

・著者名 (発表年). 表題, 誌名または大会名, 引用ページ.

例 : 齋木 潤 (2010). 視覚性ワーキングメモリの動的更新と特徴統合, 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, ITL1.

附則

この規程は, 平成 28 年 9 月 23 日から施行する。

平成 29 年 2 月 13 日改訂

平成 29 年 4 月 26 日改訂